町田　睿　フィデア総合研究所　取締役理事長

未来眼とうほく　第28回

山形の魅力活用と地域連携で「地方創生」

山形市は、山形県の県都で人口は約25万3000人（平成29年３月）、面積は381㎢と比較的狭いが市街地、農村部、中山間部と多様な地域が含まれる。

早くから仏教文化が伝来し、立石寺（山寺）が天台宗の慈覚大師により開山されたのは貞観２(860)年とされている。江戸時代初期の最上義光治世下で、城下町が拡張され整えられた。江戸時代中期以降、染料等の原料となる紅花、鋳物の製造などにより商工業が発達した。これら物産の交易が最上川舟運の発達をもたらし、蔵文化などの上方・江戸文化の導入にもつながった。

明治維新の廃藩置県により山形県庁がおかれ、初代県令三島通庸（みちつね）により近代都市としての整備が行われた。

市内には、文翔館（元県庁舎）などの洋風建築、前述した蔵屋敷、また、郊外には芭蕉の句でも有名な立石寺（山寺）、蔵王温泉などの史跡、名所が多数ある。

製造業としては、食料品製造、生産用機械器具の出荷額が大きい。また、起源が平安期に遡る（さかのぼる）山形鋳物は伝統工芸品に指定されているが、そこから本市工業の特色でもある鋳造機械分野が発達した。肥沃（ひよく）な平野部では米作、果樹栽培などの多様な農業が営まれている。

県都として山形県行政の中心であり、また山形大学などの高等教育機関、県立、市立病院などの医療機関が設置され、山形県の教育、文化、医療の一大拠点となっている。

佐藤市長は、東京大学を卒業し通商産業省（現経済産業省）に入省、若くして退官後、自身で起業を経験し、シンクタンクの研究員などを経て2015年９月に山形市長に就任された。世界に誇る健康・安心のまち「健康医療先進都市」の実現に向けて、まち・ひと・しごと創生総合戦略を併せた「山形市発展計画」を推進されている。

戦後最年少の山形市長として、いろいろなアイデアを持ち精力的に市政に取り組まれている市長に地方創生への取り組みなど幅広くお話をお伺いした。

佐藤　孝弘（さとう　たかひろ）
1975年函館市生まれ。2000年東京大学法学部卒業、同年通商産業省（現経済産業省）入省。2003年同省を退官し起業。2005年日本経営合理化協会勤務、2007年公益財団法人東京財団研究員。2011年山形市長選に立候補し、次点。2015年第18代山形市長に就任。

政治を志したのは中学生の時

●町田　佐藤市長は、東北最若手の政治リーダーのお一人ですが、都立日比谷高校、東京大学法学部、通産省とエリートコースを歩まれていたのに、早期に退官され、おにぎり屋を起業するなどご苦労された後に市長になられたという変化に富んだご経歴です。なぜこのような道を選ばれたかというところからお話を伺いたいと存じます。

●佐藤　小さい頃から政治家になりたいと考えており、中学生ではっきりと政治を志しました。父は山形大学を卒業して函館市役所に勤務していたので、政治に関心を持ったのは公務員であった父の影響を受けたのかもしれません。

政治には、「ジバン、カンバン、カバン」が必要といわれていますが、自分にはその全てがない。そこで政治家を目指すには公務員になって行政に携わることがよいと考え、当時の通産省に入りましたが、大変いい勉強になりました。また自身で事業もやってみたかったということでおにぎり屋を起こしました。うまくいきませんでしたが、いい経験になりました。

●町田　政治家を志すということで首尾一貫されていますね。山形市長に立候補されたのはご尊父と山形とのつながりによるものですか。

●佐藤　山形の話は父からよく聞いておりました。通産省をやめてから、いくつかの職を経てシンクタンクの東京財団の研究員をしておりました折、国会議員の方々に政策提言などをする機会があり、そのなかで山形市長選立候補の誘いがありました。厳しいとわかってはいましたが、父と山形とのつながりもあり、天命と思い立候補しましたが落選。その後地元でいろいろと活動を続け２回目の挑戦で当選させていただきました。

●町田　大きな変化の時代が到来しており、今ほど政治のリーダーが必要な時はありません。生まれ育ったところではない山形でいろいろとチャレンジされておられ、敬服する次第です。

●佐藤　私自身山形市に大変魅力を感じています。その魅力を徹底的に磨き、生かすことで山形を元気にしたいと思っています。

エリアで力を合わせ発展を

●町田　地方創生は全国的な課題ですが、地域それぞれが自らの持つ資源を生かすことに主体的に取り組むことが必要です。市長は山形市に魅力を感じておられるとのことですが、具体的にはどういった点でしょうか。

●佐藤　本市は東北地方の他の県都に比べて市域が比較的狭く、人口密度が高いのでコンパクトといえます。しかもその市域のなかに、市街地、農村部、中山間部と変化のある地域が含まれ、第１、２、３次産業のバランスがとれており、いい意味で地方らしさが凝縮しているといえます。

また四季がはっきりしていて、水にも恵まれています。桜、紅葉だけでなく、市民が山へ入り山菜を摘んで近所にも配り楽しむなど、当たり前のように四季を享受しています。

●町田　確かに山形市には、いろいろな要素がコンパクトに収まっていると思います。農業も米だけではなく、果樹、野菜などバランスがとれていますね。

しかし、例えば観光の面などでは隣接する天童市、上山市などと協働していくことも必要ではないでしょうか。

●佐藤　都市間競争ということはありますが、既存の市町村といった狭い地域で競争するのではなく、エリア間競争として広くとらえ発展していくことが大切だと思います。10％通勤圏（中心地域（山形市）への通勤者の割合が10％以上である都市圏）ということであれば村山地域全体が一つのエリアとなりますし、さらに視野を広げれば仙台圏があります。仙台市との間で昨年、仙山連携協定を結びました。

●町田　仙山連携によって、どのような将来像を描いていらっしゃるのですか。

●佐藤　２都市のあり方については、仙台市とよく話をさせていただいています。２都市間の通勤、通学などが当たり前となる仙山生活圏の形成ということです。本市に住んで仙台市のオフィスに通う、その逆もあります。ヒト・モノ・カネが密接に行き来することを目指しています。

●町田　山形市が仙台市の副都心となるような面もあるのでしょうか。

●佐藤　そういう面もありますが、仙台市は、商業、サービス業、本市は農業、製造業に強みがあります。大学は両市にありますが、美大は本市にしかありません。両市は補完関係にあり、相性はよいのではないでしょうか。

●町田　いい意味で刺激しあう関係ということですね。

観光振興も東北全体の連携が必要

●佐藤　特にインバウンド（外国からの観光誘客）は単独の市ではなく広いエリア、東北全体を見据えることが大切です。天童市、上山市、本市が共同でDMO(注)を立ち上げ、三市に限らず広く観光に取り組むこととしています。

また、フィデアグループにもお世話になりましたが広く三市を超えて出資していただき、DMC(注)として「おもてなし山形株式会社」が設立されました。

仙台市は仙台空港を核として東北全体のゲートウェイとして重要ですが、その仙台空港が民営化され、台湾便の増加、また、ピーチ・アビエーションが仙台空港を拠点化することもあり、LCC(注)を活用したインバ

町田　睿（まちだ・さとる）
1938年秋田県生まれ。東京大学法学部卒業後、富士銀行に入行し同行取締役総合企画部長、常務取締役を経て、荘内銀行取締役頭取、同行取締役会議長、フィデアホールディングス取締役会議長等を歴任。現在、北都銀行取締役会長、荘内銀行相談役、フィデア総合研究所取締役理事長をそれぞれ務める。また、2012年４月より２年間、東北公益文科大学の学長を務め、14年10月に同大名誉教授の称号を授けられた。

おもてなし山形株式会社(DMC)の創立
（写真提供　山形市）

ウンドの増加が期待されます。

注）DMO（Destination Management Organization: 地域の観光資源に精通し、地域と協同して観光地域作りを行う法人）

DMC（Destination Management Company : DMOの一形態（企業体））

LCC （Low Cost Carrier : 低コスト（格安）航空会社）

●町田　山形空港も活性化が必要で、LCCの誘致を考える必要がありますね。インバウンドにおいては、空港に着いてからの足の確保、すなわち二次交通の充実も重要です。

●佐藤　山形県の昨年のインバウンド数は東日本大震災前のピークを超えましたが、インバウンドの多くが個人旅行なので交通ルートの強化が重要です。仙台空港と山形市間の空港直行バスも復活しましたし、震災後、観光についても東北全体でやっていこうという気運が高まったと思います。

●町田　東北地方は江戸時代の藩体制の残滓なのか、地域性が強い傾向にありますが、これを超え連携を促すのが観光だと考えられます。

定年後の高齢者は、俳句、囲碁などを趣味にする方が多いと思いますが、芭蕉の足跡を追うだけでも観光ルートができると思います。

●佐藤　確かにそういう趣味をお持ちの方々に山形を周遊してもらうといいですね。「奥の細道」の芭蕉の句も、宮城から山形に入ったところでいいものがたくさんある気がします。

●町田　芭蕉の句風は、太平洋側から峠を越えて山形に入って変わったともいわれています。もう一人、山形で忘れてはならないのは歌人の斎藤茂吉ですね。

インバウンドも重要ですが、これから増える高齢者が国内観光をしてもらえる仕組みづくりも大切だと思います。

●佐藤　斎藤茂吉の歌碑を蔵王周辺にさらに設置することを検討中です。いろいろな観光ニーズをマッチングさせていくのがDMO、DMCの役割だと考えています。

故郷に戻ってこられるまちづくり

●町田　山形市の創生総合戦略「山形市発展計画」では人口ビジョンがかなり強気の見通しになっていますが。

●佐藤　人口の問題は対応が難しくハードルが高いことは認識しています。本市は、中核市を目指すということで人口30万人を目標として掲げてきましたが、このための取り組みが不十分であったことは否めません。「山形市発展計画」の策定を契機に、やれることは全部やっていくということで臨んでいます。市役所内からもいろいろな新しい発想がでてきています。

●町田　人口を維持、増加させるためには特に若者を増やすことが必要ですが、若者の移住、定住、出生率の上昇のための施策はどのようなものでしょうか。

●佐藤　若者を増やすという観点では、まず、働く場所を確保する必要があります。地元企業の悩みを解決し応援する施策の他、企業誘致も重要です。荘内銀行さんにもご尽力いただきましたが、中央インター産業団地にシャチハタさんの研究所と工場が先日竣工しました。これで産業団地の93%が埋まったことになります。

また、安心して子育てができるということも重要です。例えば保育料については、第２子を軽減、第３子は無料にすることにしました。保育所の増設、学童保育の充実、病児保育の開始、産後ケア制度などに取り組んでいます。出産から学童期に至るまで一貫した支援を行えるようにしており、他の都市と比べても子育て支援は高い水準にあると思います。

●町田　移住、定住促進ということでは地域の魅力をどうやってPRするかも重要です。

●佐藤　これまで本市に住む魅力の発信が十分ではなかったので、「リアルローカル山形」というインターネットサイトでUターン、Ｉターンしてこられた方の目線で発信していただいています。例えば、年収が多くても、東京では家も狭いし満員電車で長時間通勤です。本市ではそういうことはなく、生活の質が違います。

本市を含め山形には優良な企業がたくさんありますが、本市を離れた方には必ずしもそういう認識がないことがあります。東京での企業説明会、親御さん向けの説明会、「ジョブっすやまがた」という正社員専門の就職支援サイトなどで理解を深めていただく施策を展開しています。

本市では若くても子育てがのびのびできる戸建に住むことができますし、マンションに住むこともできます。市街地に住むことも、より自然に近いところに住むこともできます。都市の魅力は総合力であり、コンパクトな市域で土地利用の最適化を図るため、規制緩和も進めていきたいと考えています。

「健康医療先進都市」を目指す

●町田　私の生まれた秋田県は、秋田市へ一極集中の傾向がありますが、山形県は地域毎に特色のある多極分散型でそれぞれが切磋琢磨しているように感じます。

●佐藤　おっしゃるように山形県は多極分散型ですが医療機関は本市に集中しています。人口あたりの病院、診療所数は東北地方でトップクラスです。今後、地方によっては診療科の偏りなどで、バランスのとれた医療が受けられなくなる可能性があります。

本市では医療機関が集中しているという強みを生かしバランスのとれた医療を発展させていくということで、都市のブランドとして「健康医療先進都市」を掲げ取り組んでいます。

●町田　その関係で先日アメリカのミネソタ州ロチェスター市を視察されたと伺っています。

●佐藤　もともと健康医療先進都市を目指すにあたってはロチェスター市が念頭にありました。人口11万人と大都市ではありませんが、世界的に著名なメイヨークリニックを中心とした街づくりが行われ、IBM等の工場もあり雇用も増加しています。地方都市の街づくりのあり方として大いに参考とすべきと考えています。

医療技術では日本は遜色ありませんが、ブランドとして「患者第一のメイヨークリニック」が徹底されています。世界中から患者がやってきますので、各宗教の礼拝所が院内に設置されるなど、「患者第一」が隅々までいきわたっています。

●町田　山形大学で計画中の重粒子線照射装置ですが、採算にのせるためには集患の広域化が必要で、東北全体で連携していくことが重要だと思います。

●佐藤　がんに対する関心が高く、これからは重粒子線照射装置のようにがん治療に強いということが大切です。山形大学が中心となって作った「東北がんネットワーク」という基盤ができていますので、これを活用して広いエリアから適切に患者を受け入れていくことが非常に大事だと思います。通訳、保険などの課題もありますが、インバウンド患者の受け入れも考えていく必要があります。

「至誠」を理念に

●町田　市長は東洋思想にも興味を持たれていると伺っていますが、どのような理念をお持ちでしょうか。

ロチェスター市アーデル・ブレード市長と
（写真提供　山形市）

●佐藤　座右の銘としているのは「至誠」という言葉です。これは孟子の「至誠にして動かざるものは未だ之有らざるなり」というのが出典で、吉田松陰も愛した言葉として有名です。政治家としては、いろいろな場面で説得をする必要がありますが、裏から手をまわすより、真心で正面からぶつかった方が説得できると考えています。

●町田　現在は、いろいろな意味で資本主義そのものの行きづまりが見られます。トマ・ピケティの「21世紀の資本」という本がベストセラーになるなど所得格差の拡大が大きな問題となっています。将来の不安から、高齢者が貯蓄に励み亡くなる間際に資産が最大となるようなことも起こっています。だからこそ、これからの世の中を治めていく理念、思想といったものが重要だと感じています。

●佐藤　資本主義というのは、私有財産制度と市場経済の二つが柱ですが、そのなかでいろいろなバリエーションがあり、また問題も生じています。

リーマンショックも行き過ぎた金融資本主義による投機が原因です。資本主義の負の側面を抑えるためには、公共によるしっかりしたルールが必要であり、このルールづくりは政治の大切な役割です。格差の拡大に伴う分配の問題も政治の課題です。

山形で地方創生が実現できれば、全国に広げることもでき、格差の問題をはじめとしいろいろな問題の解にもなりうると思います。そのためにも、まず目の前の一つ一つの課題にしっかりと取り組み成果を出していきたいと考えています。

●町田　理念をしっかりお持ちになっていろいろとチャレンジされていることがお伺いでき、心強く思います。

本日はお忙しいところ大変ありがとうございました。